

鍊心

發行：石嶺中
校長 馬上 晃

も、今年度の学校だより
「錬心」として発行する
ことをしました。



今年度の学校経営

生徒へ
○夢と誇りと愛校
心を持った主体性
のある生徒を育て
ます

保護者へ
○協働して子ども
の成長を支える
パートナーシップ
を築きます

地域へ
○体験・交流を通
して地域とつなが
り共に歩む学校を
つくります

教育目標

○学ぶ意欲に燃え、確かな自己教育力を身につけた生徒

【探究・向上】

○心豊かに感じ、思いやり深く、主体的に実践できる生徒

【自主・自律】

○活力にあふれ、心身共に健康で、たくましく生きぬく生徒

【健康・体力】

本校の校訓
『鍊心』

自ら学び 深く考え
未来を拓く 心豊かで
たくましい生徒を育成する

「錬心」とは、日本の剣豪、宮本武蔵の言葉から、精神や技を磨き上達をはかる「錬」を「心」に刻むということとして、身に付けた資質・能力は主体的な心（意欲）と連動し、生きて働く力となると考え、「錬の心」とした。

本校には、校訓にもなっている「鍊心（れんしん）」という基本理念があります。それは、物事に対してより深く、より広く、ねばり強く探求し、激しく変化する社会に主体的に関わり、たくましく生き抜く「鍊の心」をもった生徒に育ってほしいという思いが込められています。

また、中学校の三年間は、長い人生の中でも心や体が最も成長する大切な時期であるとともに、義務教育の締めくくりにあたる三年間でもあります。中学校を卒業すると、上級学校へ進む人、働きながら学ぶ人など、それぞれの進路へ踏み出していきます。

中学校を卒業していくときに、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力などの「生きる力」を育むことが、中学校の務めであると考えています。

本校では、キャリア学習と探求的な学習を柱とした「鍊心タイム」や、石嶺ドリル、鍊心ダイアリー、学習強化週間を運動させた「鍊心サイクル」による自学自習力の育成など様々な活動に「鍊の心」が反映された取り組みが生かされています。